

<靈的備え>

こうして 私は神の祭壇に 私の最も喜びとする神のみもとに行き
豎琴に合わせて あなたをほめたたえます。神よ 私の神よ。 (詩篇 43:4)

<理解の手引き>

主は、アブラハムとその子孫に、契約のしるしとして、割礼を受けるように命じられます。割礼とは、男性の陰茎の包皮を切開、もしくは一部を切り取ることです。この割礼を受けるように命じられたのは、第一にアブラハム、そして第二にアブラハムの子孫です。第三は家で生まれたしもべたちです。彼らは、アブラハムの血筋を引いていません。第四は外国人から金で買い取られたアブラハムの子孫でない者たちです。このように血のつながりのある者たちだけでなく、血のつながりのない者も、外国人も割礼を受けるならば、アブラハムとその子孫に約束された、神の祝福にあずかることができるのです。

後に、この割礼は形式化し、割礼そのものが特権とされていくようになります。しかし、主が真に求めたのは、「心の割礼」でした。すなわち、心砕かれて心から主に信頼する信仰であったのです。(申命記 30：6)

<考えてみよう>

(観察) 主がアブラハムに、契約のしるしとして求めたことは、どういう事でしたか？

.....

.....

.....

(解釈) 割礼を受けるとは、靈的にどのような意味があると思いますか？ (ローマ 2:25-29)

.....

.....

.....

(適用) 主が今日のキリスト者に求めている「心の割礼」とは、どのような事ですか？

.....

.....

.....

<心に残ったみことばや気づき>

.....

.....

.....

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)

.....

.....

.....